

序

令和2年度の近畿大学原子炉利用共同研究等には、物理系13件、化学系1件、生物系3件、教育系4件の合計21件の共同利用申請がありました。これは、前年度と同じ申請数でした。ご存知の通り、令和2年から新型コロナウイルスの蔓延が始まり、その影響により年度当初から共同利用を見合わせる状況となりました。その後、新型コロナウイルスが収束したという状況ではありませんでしたが、感染対策を万全にする等により、令和2年7月から共同利用を再開することができ、年度末まで継続して進めることができました。令和2年度の共同利用が滞りなく遂行できたことは、研究者の皆様のご努力による結果であります。ここに深く感謝申し上げますとともに、報告書として取り纏めさせていただきました。幅広くご活用くださいますよう、何卒よろしくお願いたします。

令和2年度からは、課題の系の分類を、物理系、化学系、生物系に加え、近畿大学原子炉設立の本来の目的の一つでもあります、教育系を加えております。これまで物理系に含められておりました近大炉の運転実習などを含む教育系課題を分類しております。

研究炉は現在、その位置付けや役割などの議論が続けられている状況ですが、近畿大学原子炉は、国内で利用可能な数少ない研究用原子炉の一つです。今後とも研究・教育にご活用くださいますよう何卒よろしくお願申し上げます。

令和3年12月

令和2年度近畿大学原子炉利用共同研究等運営委員会

委員長 村田 勲